

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171700133
法人名	特定非営利活動法人 太良の里
事業所名	NPO法人 グループホーム 太良の里
所在地	佐賀県藤津郡太良町大字糸岐2491番地1 (電話) 0954-67-2858

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	

## 【情報提供票より】(平成20年10月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人				
職員数	12 人	常勤	10人	非常勤	2人	常勤換算	5.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄骨平屋造り
------	------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	10,000円+実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	1日当たり 1,000円		

### (4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	80 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	太良町立太良病院 医療法人田代医院 西野歯科
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は太良岳麓の閑静な里山に位置しており、その豊かな自然と季節の移ろいは、入居者の心を癒している。周りには人家も多く、ほんの数分で町の中心部にも行くことが出来、それだけに地域や住民と交流する機会も多い。施設内には広い果樹園や野菜畑、花壇があり、そこでの散策や野外食事は入居者の楽しみにもなっている。また、食事には、その日に野菜畑で収穫した無農薬栽培の野菜を使用している。入居者の支援にあたっては「主役はあくまでも入居者、職員は黒子」との意識で入居者本位の支援に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「重度化や終末期に向けた方針の共有」では、方針を設定し、さらに具体的な対応方針の作成を急いでいる。「災害対策」では、火災時の避難訓練だけでなく、立地条件上、強い台風にさらされる事もあり、地域住民や地元消防団にも協力を依頼している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	代表者や管理者は評価の目的を、評価に主体的に取り組むことによって、良質なサービスの水準を確保し、向上を図っていくためと理解している。しかし、全ての職員が評価のねらいや活用方法を十分に理解するまでには至っていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進介護ではホームの実情や入居者の暮らしぶり、行事の様子等を報告している。会議で出された意見等は職員会議で検討し、検討結果や新たな取り組みは次回の会議で報告している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や利用料の支払時には、意見等を伝えてもらえるような雰囲気づくりに留意している。意見や苦情は事業所にとって大切な宝であり、家族等から率直に意見や要望を述べてもらえるような場面づくりの一層の充実を期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	買い物や散歩時に近隣の人顔をあわせるだけでなく、地域の自治会に加入し、諸行事等を通じて地域住民との交流を図っている。文化祭や福祉まつりに出品して見学にかけたり、ホームの音楽コンサートや蛍狩り、花火大会には地域住民も多数参加している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の柱の一つに「共に生きる」があり、住み慣れた地域や住民との交流の中で、その人らしい生活を送れることを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の打ち合わせや毎月の定例会議で、理念を具体化して話し合い、共有を図っている。また、理念を掲示し、地域への啓発だけでなく、常に職員が理念を意識したケアに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会にも加入し、地域の浮立や奉仕作業、その他の行事に参加している。また、町の福祉まつりには、作品を出品している。ホーム行事の音楽コンサートやほたる祭り、花火大会等には地元住民も多数参加し、一緒に楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価をサービスの質の確保と向上の為ととらえ、その意義を定例会議で話し、評価項目に沿う支援や改善に向け取り組んでいる。	○	評価で明らかになった改善課題について、改善に向けた取り組みをより着実なものにしていく為にも、職員全員で自己評価に取り組むとともに、改善経過についても、話し合う機会が作られる事を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の推移や行事、研修、その他の報告と出席者からの意見や要望等について話し合われ、出された意見や要望等は、職員会議等で検討している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者、管理者は、ホーム開設当初から行政当局と頻りに顔をあわせ、情報交換を行っている。町を通して、森林組合からもらった自然木を利用して作ったテーブルやベンチは入居者の憩いの場所になっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	平均的に毎月2～3回の面会があり、その時を利用して日頃の様子を詳細に報告している。場合によっては、電話等で随時報告をしている。金銭管理については毎月きちんと報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、必ず声をかけ、別室で相談ののったり、要望等を聴いている。「希望の声」箱を置いたり、苦情、相談窓口をおいて、入所時に説明もしているが、十分な活用には至っていない。	○	苦情や相談したいことがあっても躊躇の多い入居者や家族等の心理を十分に考慮し、折に触れて入居者や家族に相談や苦情を伝えてほしいことと、伝え方を繰り返し説明するなどの一層の働きかけを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員交代があった場合は、引継ぎを入念にすると共に、入居者と事前に顔見知りになる機会を設けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会だけでなく、外部での研修の機会が各職員、年に3回程度ある。研修受講後は、毎月の定例の会議で他の職員へも伝達されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ町内の福祉関係の事業所との情報交換や、研修会を、管理者だけでなく職員も参加して行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族や本人と面会したり、見学に来てもらって、ホームの雰囲気や環境を体験してもらっている。入居後も他の入居者から話し掛けてもらったり、不安を出るだけと和らげるために、常に入居者の視点に立った支援を心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「主役は入居者。介護者は黒子」として、喜び、不安、哀しみ、日頃の思いに共感しながら支援にあたっている。職員は入居者から生活の知恵等、教えられる事も多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まず、入居時に本人や家族からの意向を十分に聴き、把握する様にしている。入居後もちょっとした言葉や行動等からも把握する様に努めている。入居者の担当制も取り入れており、入居者の意向は全職員が共通して理解している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「入所希望書調査票」による諸情報を基に、本人、家族、担当ケアマネージャーで十分話し合い、その方の現実に合った具体的な計画案が作成されている。その後、会議で検討し、本人本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行い、入居者の思いや現実に合った、より良い介護計画の見直しを行っている。状況の変化があった場合は、家族を含めて話し合いがもたれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の希望に応じて一時帰宅の支援が行われている。また、入居者の希望に沿って、外出、戸外での食事、ふるさと訪問等の支援が行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医での受診希望が多く、それらの希望に基づいた支援を行っている。協力医療機関や専門医療機関でも安心して医療が受けられる体制にある。町内での受診は、職員が付き添っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応についての方針が設定され、入居時に納得のいく説明が行われている。その後の状態の変化に応じて、家族や主治医と話し合う方針であるが、その具体的な対応策は明確にはなっていない。	○	今後、全職員での協議や、他事業所の例を参考にして、具体的な対応策の検討が予定されており、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえた支援の更なる充実を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者や職員の入居者に接遇する様子から、一人ひとりの尊厳を大切にした支援が窺える。個人情報の保護については、契約書にも明記され、また職員採用時にも職員から誓約書を提出させ、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは穏やかで、その日をどう過ごしたいかを入居者に訊ねたりしながら、希望に沿った支援が行われている。買い物や散歩に出かけたり、居間や居室で一人ひとりが思い思いに過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事をし、入居者同士の会話や、笑い声もある。入居者と職員と一緒に野菜の下ごしらえをしたり、食卓の準備や味見などを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	普段は2日毎の入浴であるが、希望される入居者は毎日でも入浴ができる。これまでの生活習慣に応じてゆっくりした気分での入浴支援が行われている。羞恥心等に対する配慮も十分にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手毬づくりや編み物、絵画、読書、野菜畑の手入れ、洗濯物たたみ、食事の準備、干し柿づくり、猫の世話等、生活歴を活かした役割りや楽しみ事がある。梅干づくりの時などは、各家庭の味を出そうと賑やかな一時になり、こうした場面を通じて、入居者の豊かな暮らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い果樹園や野菜畑を散策したり、季節に応じて焼きいもや牡蠣焼き、食事会を楽しんでいる。買い物や近所への散歩に出かける方もあり、希望に沿った外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで、日中の施錠はない。入居者が外出しそうな様子を察知したらそれとなく声をかけたり、一緒について行き見守ったりしている。職員は施錠を閉塞感や不安感を与えるものと理解し日中鍵をかけないで支援していく意識や姿勢を徹底させている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や台風を想定した避難訓練を、年に2回実施している。災害時の地元消防団や地域住民の協力もお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認は、毎食行われている。水分摂取量についても把握されている。居室にペットボトルを置く等した水分確保の支援が行われている。献立については栄養士の指導を受け、栄養バランスのとれた高齢者向きの食事である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いガラス戸や吹き抜けの天窗からの自然光で明るい室内で、入所者が視聴する時以外はテレビも消し、静かな環境である。玄関や居間は季節の花が生けられている。居間の畳、ウッドデッキ、庭のベンチ等の気に入った場所で居心地のよく過ごせる空間づくりがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、その方の好みに合わせた物が持ち込まれ、落ち着いた心安らぐ場所となっている。お気に入りの洋服や履物、ご主人の写真、手芸品、テレビ、その他色々な物が見られる。位牌を持参して毎日拝んでいる方もある。		